

共進化実現プロジェクト（平成31年度（令和元年度）～令和2年度）フォローアップ
アドバイザリーからの助言（共通事項）

令和2年6月

【現状認識と課題】

- プロジェクトの開始から1年が経ち、5月8日及び5月15日の成果報告会を通して、各プロジェクトの進捗を把握した。総じて、参加する研究者と行政官とはコミュニケーションを綿密に取って進めており、共進化は全体としてはうまく進んでいると考えられる。
- 一方で、個別のプロジェクトの進捗には幅があり、例えば、参画する行政官の異動によって継続が難しくなっていることや、参画する研究者が政策課題に応えるだけの多角的な検討ができていないこと、行政のニーズにあわせようと意識が働くためか研究自体の取り組みがやや疎かになっていることなどの課題が見受けられるものもあった。
- うまくいっているプロジェクトをさらに伸ばしていくとともに、苦勞しているプロジェクトについては支援を行っていく必要がある。

【プロジェクトへの助言】

- 引き続き共進化の趣旨を踏まえ、研究者と行政官の対話による取り組みの推進に努めてもらいたい。その際、他のプロジェクトの進捗をよく参考にした上で進めることが重要である。
- 参画する行政官は、研究成果を活用するだけでなく、結果に対するフィードバックやさらなる政策課題の提案を積極的に行って、取り組みを進めてもらいたい。
- 参画する研究者には、取組の結果を研究成果として着実にまとめるとともに、政策立案に貢献するという観点から、多角的な検討を進めてもらいたい。
- 将来的に、参画した研究者と行政官とが協働で論文を執筆するなど、プロジェクト終了後も発展していく協働関係を個人、組織の両面から模索してもらいたい。

【事務局への助言】

- プロジェクト間のより頻繁な交流を図り、ノウハウを共有した上で関係者が参画できるような支援をしてもらいたい。特に、参画する行政官の異動などの体制の変更があったプロジェクトについては、丁寧な支援が望まれる。
- 今後の発展を見据えて、政策担当者である行政官と政策研究者との共進化が自律的・持続的に進むための教訓を整理するよう努めるとともに、その教訓を今後のプログラム運営やプロジェクトマネジメントに順次活かしていくべきである。